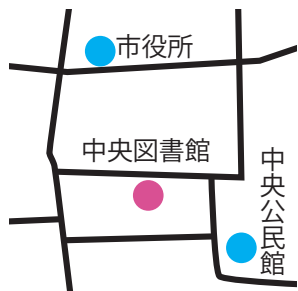


中央図書館の中に入ると、二階までの吹き抜け。正面奥には、



たくさんの本が並ぶ書架が見えます。右側を見上げると、キラキラ輝く色鮮やかな、作品が目に残ります。赤、白、オレンジ、緑、青などの色がさまざまな幅で平行に積み重なっています。これは環境造形作家・西田明未さんの作品で、タイトルは「Books」。その名のとおり、横に積まれた本が主題になっています。離れて見たときに輝いていたのは、大きさの違う立体ガラス。近くに寄り、下から見上げると、ごつごつしているのが分かります。背表紙には金色で文字のようなものや模様が描かれ、重なった本の厚みや高さはいろいろ。どんな内容の本なのか想像してみるのも楽しそう。さあ、今日は何の本を借りようかな？



どんぐり

編集後記

資源化センターからの帰り道、平塚の天満宮で白梅の木を見つけました。寒風が吹く中、咲いている花はまばら。つぼみの多くは、まだ固く閉じたまま▶1週間後、同じ木を観察。前に見たときと特に変わった様子はない。と思いつつ近づくと、つぼみは、どれもが大きく膨らんでいます。開花の準備は万全。夕方、みぞれ混じりの冷たい雨が降る中でも、季節は確実に春に向かっていくと実感しました▶川越に春の訪れを告げる、小江戸川越春まつり。新河岸川での舟運は、人気のイベントのひとつ。兩岸から張り出すように咲く桜の花を映した、淡紅色の川面。舟が滑るように進む様子を見るのが今から楽しみです▶まだ固い桜のつぼみも、春を待ちわびながら、一雨ごとに柔らかくなります。



オタフクナンテン

市役所北側の駐車場の植え込みを彩る、鮮やかな赤色。遠くから見ると、花と見間違えるほどの色は、葉の紅葉。背丈は低く、三十センチメートルほど。葉が丸く反り返る様子が、ふつくらしたお多福に似ていて、この名前が付いたとか。和名の南天は、難を転じるに通じ、縁起が良いといわれています。学校帰りの子供たちが、寒さでほったたを赤くして、元気に走って行きました。



おしゃべり倶楽部

植物あらかると

250